

手術部

1. 看護単位の概要

手術室数 24 室（中央診療棟 17 室・外来棟 7 室）

回復室 5 床

2. 部署の特徴

手術部は外来棟と中央診療棟合わせて 24 室の手術室と回復室 5 床、術前診察室 3 室を有している。手術室 24 室のうち、デイスージャリー診療部門として 6 室、ハイブリッド手術室 1 室、MRI 手術室 1 室、バイオクリーンルーム 2 室がある。また、器材管理室や、日帰り手術患者が術前・術後を過ごす前室と処置室がある。

平日は 20 の診療科に手術枠が割り当てられており、1 日の稼働室数は 20 室前後、年間手術件数は 11000 件前後である。休日は緊急手術に対応している。

看護師は手術 1 件につき、器械出し看護師 1 名と外回り看護師 1～2 名が担当している。それぞれの役割の中で安全・安楽に手術が終えられるよう、麻酔や術式の理解、必要な器材の取扱い方法等の習得、皮膚・神経障害の予防対策の習得などに努めている。

デイスージャリー診療部門では手術担当の看護師以外に術前診察や前室にも看護師を配置している。日帰り手術患者の術前の説明や指導、さらに術後の処置方法や観察の指導を行い、手術中だけでなく、周術期を通して効果的な治療が受けられるよう支援している。

看護師による術前面談では、手術当日の流れを説明し、情報収集や不安軽減につとめるとともに深く介入が必要な場合は、病室訪問することが定着してきた。術前面談と病室訪問を組み合わせることにより、個別性のある看護計画を意識し手術看護に活かしている。

また、医療器材部の滅菌センターが隣に新設されたことに伴い、従来、手術部で実施していた器材の洗浄・滅菌等を滅菌センターで実施している。専任のスタッフの管理により手術器材の準備や状態の質が向上することで患者によりよい手術環境を提供できている。